

くみあいだより

KUMIAI DAYORI



©ミカちゃん

2024

11



特集1

マルエムブランドの維持と発展のため品質の追究を!
令和6年産温州ミカン販売と今後の見通し

特集2

お困りじゃないですか? JAポータルQ&A



HP



LINE

マルエムブランドの維持と発展のため品質の追究を!

令和6年産温州ミカン販売と今後の見通し

JA 静岡経済連 販売情報センター 水野 光



早生の目揃い会で出荷基準を確認する生産者

令和6年産のミカン販売が開始しました。競合果実の動向は、春先の低温の影響により夏果実を中心に数量減、単価高で推移しています。全国的にカlemenシの発生が多く、柿等で落果や下位等級の発生が増加しています。レモンは、全国的に作付け、生産量が増加し流通在庫も増え、販売は苦戦する傾向が窺えます。そのような中、競合品目や入荷量に左右されず、有利販売につなげるためには、消費者に選ばれ続けることが重要になります。食味はもちろん、イタミが少ないなど品質を追究し、安心してマルエムミカンを購入していただけるよう、品質管理とブランドの維持、発展に努めていくことが重要です。

全国生産概況

令和6年産温州ミカン生産予想量
<9月1日時点：日園連調査>

68.0 万トン

[2023年(R5)比100%、2022年(R4)比99%]

品種別に比較すると早生温州（同比100%、101%）、普通温州（同比101%、100%）ともにおおむね昨年並みの計画量です。8月時点よりも下方修正されており、今後さらに下方修正となる可能性もあります。



出荷基準などについて説明する指導員

これまでの情勢

▼早生ミカンへの切り替えスマート化に

本年産の温州ミカンの販売は、9月上旬の宮崎県から本格化しました。台風10号の影響や酸が高く推移したことから当初予定よりも出荷日を遅らせた产地もありましたが、各産地ほぼ平年並みの出荷開始となりました。

気象は、8月上旬まで各産地とも高温と乾燥が続き、8月下旬以降は台風10号の接近に伴う集中的な降雨により、降水量は多くなりました。

果実内容は、高糖・高酸、小玉傾向で推移していましたが、その後降雨がまとまり、糖酸とともに平年よりやや高く、果実肥大はおおむね平年値へ回復傾向にあります。気温高の影響から着色は遅く、日焼け果の発生も平年に比べて多い傾向にあります。全国的にカlemenシの吸汁被害が出ており、落果や下位等級の発生が増加し、出荷計画は下方修正され、今後も減少することが予想されます。

また、競合果実類の出荷の前進化や小玉傾向から入荷量は減少し、全般に切り上がりが早い傾向になります。極早生ミカンは、着色遅れと減酸が遅れている産地もあり、市場入荷量は増えず不足感から高値基調での販売となりました。極早生ミカンの流通量は少なく、早生ミカンへの切り替えはスマート化なることが期待されています。

これから的情勢と今後の対策

▼新たな販促手法の模索、宣伝PRの継続で消費拡大へ

早生ミカンは、10月下旬～11月上旬より各産地の販売が開始し、11月上旬には主力産地が出揃い、中旬には最盛期に入ります。

量販店では、イベントや試食宣伝も実施されるようになります。しかし、コロナ禍を経てマネキン会社が減少し、マネキンの確保が難しくなるなど、新たな問題もあります。新たな販促手法の模索を継続するとともに、昨年は「静岡県産みかん県下統一宣伝」で大相撲1月場所とタイアップした宣伝に取り組み、市場や仲卸、販売先などの実需者からは好評でした。本年も大相撲1月場所とのタイアップを強化し、継続して静岡県産みかんの宣伝とPRを実施するとともに、売り場確保・拡大と効果的な消費拡大に努めてまいります。

▼信頼のマルエムブランド維持発展のために

消費者が認知しているのは、産地への「信頼」です。マルエムブランドは今日までの長きにわたり、生産量の確保と品質・食味にこだわったブランドとして、すでに「信頼」を勝ち得ています。皆さまが生産したミカンを待ち望んでいる消費者が大勢います。ここからが本番です。リピーターを確保するには、「食味」を評価され「もう一度食べたい」と思われる

おわりに

これが大切なことです。売り場を確保するには、安定供給と精度の高い出荷計画が重要になります。食味の良いミカンの生産と厳選出荷、さらに安定した数量・品質の計画出荷により、マルエムブランドの「信頼」を維持、発展していきましょう。

近年は、異常気象が多く本年も例外ではありません。生産者の皆さまには栽培に苦労が絶えないことが多いですが、収穫期まで高品質ミカンの生産を心がけて下さい。出荷基準の確認や生産者間の意識統一を図るとともに、家庭選果における腐敗果の徹底排除にも取り組んでいたただくようお願いいたします。また、正確な出荷計画に基づいた出荷が有利販売に繋がりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

▼出荷基準確認や家庭選果で腐敗果の徹底排除を

生産者の皆さまには生産コストの増大により大変ご苦労されていることだと思います。経済連としましても、関係市場に向けて現状を踏まえ、産地状況の理解を促しながら、市場と連携して販売を強化していきます。今後も生産者の皆さまの所得向上を念頭に、令和6年産のミカンの販売が順調にできるよう取り組んでまいりますので、ご理解とご協力ををお願いいたします。

1万人突破! JAみつかびインスタグラム

JAみつかびのインスタグラムが、フォロワー数1万人を突破しました！ 本格的に運用を始めた2022年4月のフォロワー数は2,000人弱。そこから、三ヶ日みかんの魅力を発信し続けた結果、JA全中主催のインスタコンテストで、令和5年10月11日に投稿した「早生みかんと青島みかん徹底比較」が、80のJA関連アカウント194の応募投稿の中から優秀賞を受賞するまでに成長しました。特販課でSNSの運用を担当する大津有梨亜さんに、JAみつかびインスタグラムについて聞きました！

なぜインスタグラムで情報発信しているの？

1番の目的は“三ヶ日みかんを知ってもらうこと”です。三ヶ日みかんの認知度向上のために、その入り口となるツールの1つとして重要視しています。若い世代の利用率が高いインスタグラムでの情報発信に力を入れることで、産地の維持と発展を目指しています。

どんなことを投稿しているの？

三ヶ日みかんの商品紹介やミカンに関する豆知識、町内の店や観光スポットを紹介しています。商品紹介では、特販課で販売する加工品やミカンの品種の特長、商品の入荷状況や、発送時期を発信。さらに毎月恒例のキャンペーン情報も掲載して、既存の顧客はもちろん、新規の顧客にとっても魅力的な内容になるように取り組んでいます。

今後の目標は？

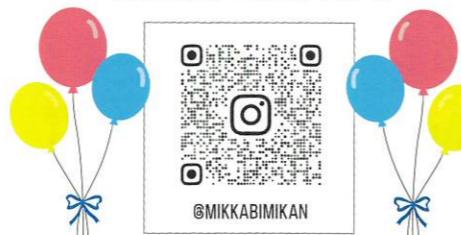
今年度末までにフォロワー数1万2,000人を目指しています！ フォロワーを増やすことは、顧客や三ヶ日みかんファンを増やすことと考えています。今後、動画投稿を強化してさらにフォロワー数を伸ばし、三ヶ日みかんの認知度向上につなげていきたいです。



特販課SNS担当
大津有梨亜



皆さんのフォローをお願いします！



11月～12月の管理

収穫時の注意事項を守り、丁寧な収穫を

1. 温州ミカンの防除

散布時期	対象病害虫	使用薬剤	使用倍数	安全使用基準
11月中～下旬	青島の貯蔵病害	ベンレート(水) 劇ベフラン(液)	4,000倍 2,000倍	前日～4回 前日～3回

- ・ミカンハダニの発生が見られる場合は、ダニコング FL 4,000倍(収穫前日～1回)を散布してください。
- ・貯蔵病害の防除に、(展)アビオンE 1,000倍を混用散布してください。
- ※収穫が近づいているため、除草剤を含め、薬剤の収穫前日数や使用回数に注意してください

2. 収穫時の注意事項

収穫時にいた傷は、貯蔵段階や箱詰め後の腐敗果につながります。腐敗果の混入は産地の信頼を落としてしまいますので、以下の点に注意し、果実は丁寧に扱ってください

- | | |
|----------------|---------------------|
| ・手袋をはめる | ・地面などに落とした果実は混入させない |
| ・果実を引っ張って収穫しない | ・果実を高い位置から落とさない |
| ・ハサミ傷をつけない | ・コンテナ満タンにミカンを入れない |
| ・2度切りを実施する | ・生傷の混入に注意する |



3. 早生の予措

収穫後に出荷予措を実施してください。コンテナに果実を7分目程度入れ、風通しの良い日陰に2～3日置き、果皮水分を3～5%飛ばしてください。

4. 青島の果実分析

収穫まで定期的に果実分析を行い、自分の園地の果実内容を把握し、右記の表を参考に収穫、出荷の計画を立てるようにしましょう。

果実内容目標値	11月1日	11月15日	12月1日	12月15日
青島	糖度	11.0	11.5	12.0
	酸度	1.47	1.16	1.00

5. 秋肥の施用

今年は、7月中旬から続いた高温・乾燥により、樹体へのダメージの蓄積が例年以上に心配されます。秋肥は樹勢回復のほか、耐寒性の向上、来春の花芽分化・発芽促進の効果が期待できます。地温が12℃を下回ると養分吸収能力が低下していくので、適期施用のようにしてください。また、本年着果の少なかった樹にも施用するようにしてください。

肥料の種類	肥料名	施用時期	袋数(10aあたり)
配合	みかん秋配合		7袋
化成	ニューマイルドエース	青島 11月中旬	6袋
固形	粒状固形88号		5袋

6. 収穫後の灌水

収穫を終えた樹は疲労が蓄積している状態です。そのままの状態で厳寒期を迎えると、寒波によって落葉や枝の枯れこみが起こり、樹の衰弱につながります。収穫を終えた園から順に10aあたり5tを目標に灌水を行い、疲労の回復をさせてください。

温州ミカンの優良品種の多くは、枝変わりによって発見されています。収穫期は枝変わりを発見しやすい時期になります。小指大の枝単位が変化する枝変わりや、1樹丸ごと変異する1樹変異を発見し、有望(味の良さ、豊産性、貯蔵性、浮皮や果皮障害が出にくい等)だと思ったら、まずは目印をつけ、数年をかけて観察してみてください。



柑橘指導課
佐野 典子

11年目に突入！ フレミズ活動ますます活発に

三ヶ日町農協のフレッシュユミズカレッジは20～40代前半の若い世代の女性を対象に、仲間づくりや農協への理解を深めてもらうことを目的に開催される女性部の世代別講座です。料理やお菓子教室など2年間で12回の講座を開講しています。このフレミズカレッジは10年以上続いている約100人の卒業生がいます。卒業生らは親しくなった同期生を中心に「みかんちゃん」「サン3オレンジ」「フォーマンドリーン」という3つの自主活動グループを作り、小学生を中心とした食農活動、他JAフレミズとの交流などそれぞれ活発に活動し、仲間同士や地域との結びつきを深めています。それらの活動の一端を紹介します。

フレッシュユミズカレッジ6期生スタート ミカンようかん&栗ようかん作り

10月16日、三ヶ日町農協女性部の第6期フレッシュユミズカレッジが開講し、14人のフレミズ生が誕生しました。初回は農協の料理教室でミカンようかんと栗ようかんを作り、11人が参加しました。



熱々のようかんを協力して流し込むフレミズ生



女性部員が託児で若い世代をサポート

フレミズ講座中は女性部員による託児ボランティア「はっぴいまが託児を行います。この日は未就園児4人を預かり、講座をサポートしました。



農協の料理教室にて

サン3オレンジは3期生を中心に結成し、現在11人で活動中。9月には遠州病院の管理栄養士2人を講師に招き、栄養バランスが良く、なおかつ時短で作れる料理を学びました。3期生には料理やお菓子で講師の資格を持つメンバーもおり、お互いが講師となつて活動することもあります。



料理の合間に話もはずむ

新生Forまんだりん 5期生が加入しパワーアップ

4期生が結成した自主活動グループ「Forまんだりん」に、フレミズカレッジを卒業した5期生が加わり、10人で活動をスタートしました。10月2日には、子供の成長に適した料理をテーマに、遠州病院の管理栄養士から栄養バランスのよい食事や

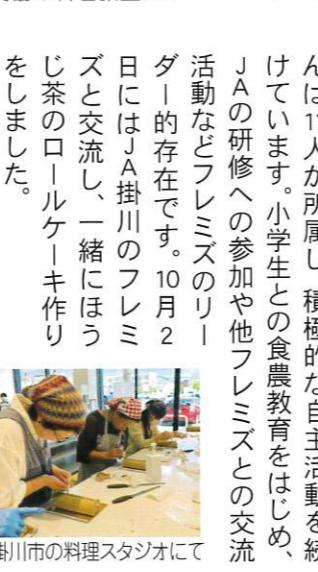
小さい頃からの食習慣の大切さなどを学びました。

山口晶代さんは「人数が増えた不安もあったが、お互いフォローしあいながらみんながテキパキと動いてくれた。緊張していたが、活動がうまくいくよかったです」と話しました。

仲間に加入了5期生の外山美穂さんは「4期生のグループに入れてもらつたが、楽しく活動できてよかったです。栄養士の先生に教えてもらつた料理は家でやりがいがあるのでうれしい」と活動を楽しんでいました。

サン3オレンジ 管理栄養士に料理を学ぶ

サン3オレンジは3期生を中心には11人が所属し、積極的な自主活動を続けています。小学生との食農教育をはじめ、JAの研修への参加や他フレミズとの交流活動などフレミズのリーダー的存在です。10月2日にはJA掛川のフレミズと交流し、一緒にほうじ茶のロールケーキ作りをしました。



料理をする様子

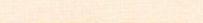
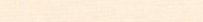
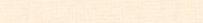
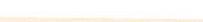
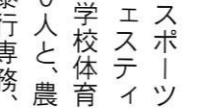
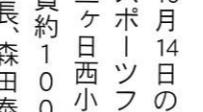
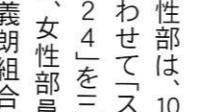
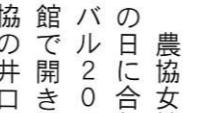
みかんちゃん 食農教育や研修に大活躍

農協女性部は、10月14日のスポーツの日に合わせて「スポーツフェスティバル2024」を三ヶ日西小学校体育館で開き、女性部員約100人と、農協の井口義朗組合長、森田泰行専務、大野達也生活経済部長、森下公平組合員生活課長が参加しました。このイベントは、昨年70周年を迎えた女性部が、記憶に残るイベントをしようと開催したもので、昨年に引き続き2回目の開催です。ミカン収穫前の大重要な時期であることから、ケガ防止のため「走らない」ことをルールに掲げています。

女性部員の皆さんに4つのチームに分かれ、「ラケットリレー」「ケツ圧測定」「〇〇食い競争」「洗濯リレー」「仮装競争」の5つの競技に挑戦。選んだカードに書かれている道具を使って、吊り下げられた賞品を取る「〇〇食い競争」では、箸や布団バサミ、爪切りなどを使い、部員それぞれが試行錯誤しながら挑戦しました。会場では、部員同士がハイタッチをして笑い合うなど、世代や支部の枠を超えて交流する姿が多くみられました。

女性部長の藤山真美さんは、「参加者が昨年よりも多く、大変盛り上がった。走らず、焦らず、賞品を目指して、楽しく大人の運動会ができるよかつた」と話しました。

J Aみつかび女性部では、来年以降もこのスポーツフェスティバルを継続して開催する予定です。



Q4 JAポータルのパスワードを忘れてしまったので教えて欲しい

A 登録の際にご自身で作成されたパスワードは、農協側では確認することができません。忘れてしまった方は、パスワードの再設定が必要です。

- ①ログインボタンの下に表示されている「パスワードをお忘れですか?」を押す
- ②利用者コードを入力して送信ボタンを押すと、再設定の案内が届く。ただし、事前のメール登録が必要です
- ③新しいパスワードを入力して再設定する

再設定が上手くできない時は…

登録に使用した通帳とスマホを持って、
営農センター 2階の「広報センター」まで
お越しください。



Q5 スマホで登録してあるが、パソコンでも購買明細を見たい。 どうやって見る?

A ①インターネットで「JA ポータル」と検索

②JAポータルのページを開く



③利用者コードと
※自分が設定した
パスワードを入れ、
ログイン



④請求書ボタンを
押す



⑤確認したい月を選択
する

請求書一覧		
請求書年月日	請求金額	開帳状態
2024年05月31日	0	未開帳
2024年04月30日	4,578	未開帳
2024年03月31日	0	未開帳
2023年05月31日	4,490	未開帳

※アルファベットと数字を組み合わせたものです

申告等で使う場合は大きな画面に映したり、印刷が便利です!



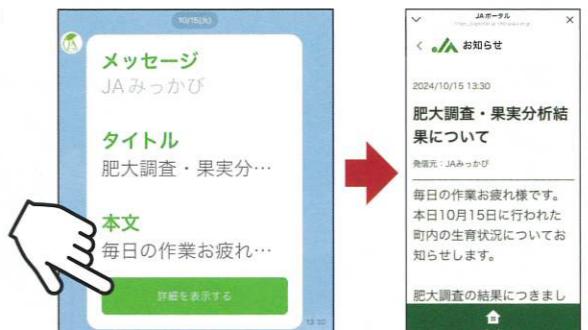
特集 お困りじゃないですか? JAポータルQ&A

家族も「訃報」や「営農情報」の連絡が届くようにしたい。
パスワードを忘れてしまった。など困ったことはありますか?
JAポータルの使い方を、よくある質問や、JAポータルで行ったアンケート結果をもとにご紹介します。



Q1 届いた訃報や営農情報などのお知らせはどうやって見る?

A お知らせが届いたら、まずJAポータルのLINEを開きます。「詳細を表示する」ボタンを押すと、詳しい情報を見るることができます。



Q2 スマホの容量が心配なので、LINEに届いたメッセージを消したい

A 届いたメッセージの容量は大きくありません。メッセージが溜まっているのも、スマホの容量に影響することはないため、消さなくても大丈夫です。

Q3 組合員家族ですが、JAポータルを登録したい

A 組合員ご家族の方で、ご自身名義の農協の通帳をお持ちの方はご登録いただけます。登録には手続きが必要な場合がありますので、ご自身名義の通帳とスマホを持って、営農センター2階の広報センターまでお越しください。

肥料年特推進座談会 アグポスについても説明



情勢について話す井口組合長

10/10~29



肥料年特推進座談会
アグポスについても説明

三ヶ日町農協生産資材課は町内22会場で「肥料年特推進座談会」を開き、肥料価格と情勢、注文方法などを説明しました。配合肥料については、価格を抑えつつ、有機成分を増やすために原料の見直しが行われました。また、日本の肥料原料はほとんどが海外依存で、為替や国際情勢の影響を受けやすい現状も説明されました。同時に、ミカン栽培における肥料の重要性が改めて強調されました。さらに、来年から始まるスマホを使った新しい注文システム「AGPOS(アグポス)」についても紹介されました。

アグリワーク需給調整会 防ごう、農作業事故



社会保険労務士の講話を聞く組合員

10/11



三ヶ日町農協営農支援課は、ミカンの収穫作業援農者の紹介を希望する生産者を集め「アグリワーク需給調整会」を開き、約160人が参加しました。ミカンを生産するうえで欠かせない援農者の力を確保し、生産者に紹介するため毎年この時期に行っています。需給調整会の中では、アグリワークや外国人材活用による農業受託についての説明、雇用管理研修も行いました。

雇用管理研修では社会保険労務士の鈴木泰子さんが、農作業事故の現状や外国人材、雇用トラブルの対応について話しました。講話の中で鈴木さんは、刈払機やモノレール、動噴、SSで起きた事故事例を紹介。参加者は資料を確認しながら熱心に話を聞いていました。また、「4S」「整理」「整頓」「清潔」「清掃」について解説し、4Sは安全対策を作る基本になると呼びかけました。

鳥獣被害防止に正しい対策を 静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修

10/9~11



静岡県食と農の推進課が主催する鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修が10月9日から11日の3日間、三ヶ日町農協などを会場に開催されました。県内各地域において野生鳥獣による被害防止対策を総合的に組み立てるために正しい知識や技術を習得し、指導できる人材を養成するための研修として年1回開催されているものです。県内全域から集まつた市役所やJA職員23人が参加し、アドバイザーとなりました。

研修はこのほかにも静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター職員による正しい柵の設置方法の解説と参加者による実践など、知識と技術両方の習得を行なわれました。

園地周辺の鳥獣害対策を視察する参加者と講師の古谷氏(右)



ミカン収穫に励む森田博典さん(奥)と息子の晃生さん

11/9

徹底した生産管理のもと出荷へ 三ヶ日みかんスタート



よいよ三ヶ日みかんのシーズンが始まりました。今年の三ヶ日みかんの作柄は表年。3万2000トンを予測しています。内訳は早生9000トン、青島2万1000トン、その他200トンです。今年も夏場の酷暑にくわえて9月、10月まで記録的な高温が続く生産環境でしたが、生産者の皆さんのが徹底した生産管理のもと、例年並みの果実内容に仕上げることができました。

平山の森田博典さんと晃生さん親子は、11月3日から収穫を始めました。森田さんは「ミカンの仕上がりは上々。夏場の乾燥やカメムシの発生、大雨による土壌流出といったさまざまな困難に直面したもの、カメムシについては昨年の経験を活かして、抑えることができたと思う」と振り返りました。今後ますます忙しくなる収穫作業については、「健康に気を付けながら、家族や切り子さんを含め、ケガのないように注意し、忙しい時期を乗り越えたい」と話しました。

三ヶ日町柑橘出荷組合の森田能正出荷組合長は、「昨年同様、良いミカンに仕上がった。生産者が一生懸命作ったミカンをおいしく召し上がってほしい」と話しています。11月9日に初集荷されたミカンは、10日から特産物直売所と特産センターで販売がスタート、直売所では初売試食会も開かれました。公式オンラインショップでは、11日から発送が始まりました。また、県内・中京の他、京浜・東北、北海道にも出荷されます。中京地区では11月16日から、マネキンを使った店頭での試食宣伝会を大々的に開催します。年明けには、京浜地区でも試食宣伝会を計画しています。



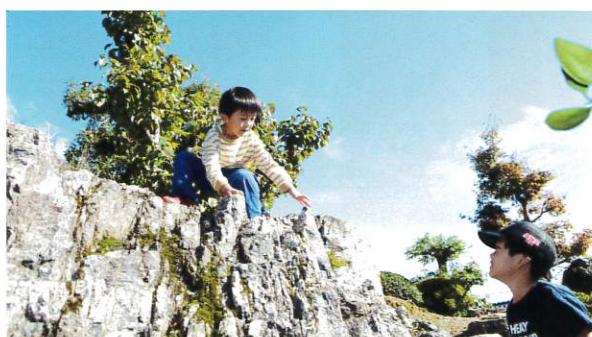
今年のミカンのお味はどう?



おいしく召し上がり!



きれいに仕上がりました



園地の周りは子供たちの遊び場!

撮影日:令和6年11月3日(日) 只木の園地にて

鮮やかに色づいたミカンが、只木の山本純さん(38)の園地で実を結んでいます。山本さんは就農して8年目。両親と祖父とともに、8haの園地でミカン作りに励んでいます。

父親の代に機械化が進み、畑の基盤が整っていると話す山本さん。しかし、近年は異常気象の影響で灌水に多くの時間を費やさなければならず、作業に影響を与えています。設備投資を行い、空いた時間を活用して摘果を進め、良いミカンを作ることを目指しています。

山本さんは昨年のJA青年の主張発表大会で、「趣味のように生きる農業人生」と題して発表しました。「休日と仕事を両立している農家でありたい」と笑顔を見せます。また、「経営者として結果を出し、堂々と休めるような働き方をしていきたい。それでもミカンの収穫量や質は落とさず、今以上を目指します」と、未来への抱負を語りました。(※山本純さんは、12月15日(日)放送の「(+)ちそうカントリー」に出演する予定です。)

設備投資で、品質向上!ミカン生産と働き方改革へ!

それに、効率化への意識にはもう一つ理由が。

山本さんは昨年のJA青年の主張発表大会で、「趣味のように生きる農業人生」と題して発表しました。「休日と仕事を両立している農家でありたい」と笑顔を見せます。